

貸借対照表

(2023年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	112,675	流動負債	56,264
現金預金	12,773	工事未払金	36,920
受取手形	22	リース債務	218
完成工事未収入金	54,798	未払金	4,951
契約資産	20,554	未払法人税等	149
未成工事支出金	19,504	未成工事受入金	1,119
関係会社預け金	1,985	預り金	5,871
その他の他	4,210	工事損失引当金	5,148
貸倒引当金	△1,173	完成工事補償引当金	58
固定資産	115,463	損害補償損失引当金	679
有形固定資産	50,274	その他の他	1,148
建物・構築物	16,243	固定負債	2,493
機械・運搬具	43	リース債務	358
工具器具・備品	428	繰延税金負債	14
土地	31,362	再評価に係る繰延税金負債	1,213
建設仮勘定	1,687	長期未払金	840
その他の他	509	その他の他	66
無形固定資産	3,201		
ソフトウェア	3,137	負債合計	58,757
その他の他	64	(純資産の部)	
投資その他の資産	61,987	株主資本	174,622
投資有価証券	9,386	資本金	10,000
関係会社株式	30,693	資本剰余金	-
長期貸付金	14,429	資本準備金	-
長期前払費用	195	利益剰余金	164,622
前払年金費用	7,620	利益準備金	2,500
長期保証金	483	その他利益剰余金	162,122
その他の他	1,649	固定資産圧縮積立金	360
貸倒引当金	△2,470	別途積立金	43,754
		繰越利益剰余金	118,007
		評価・換算差額等	△5,241
		その他有価証券評価差額金	3,087
		土地再評価差額金	△8,250
		繰延ヘッジ損益	△78
		純資産合計	169,381
資産合計	228,138	負債純資産合計	228,138

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

〔 2022 年 4 月 1 日から
2023 年 3 月 31 日まで 〕

(単位：百万円)

科 目	金	額
売上高 完成工事高	185,482	185,482
売上原価 完成工事原価	170,194	170,194
売上総利益 完成工事総利益	15,288	15,287
販売費及び一般管理費		10,181
営業利益		5,106
営業外収益 受取利息配当金 その他	2,938 185	3,123
営業外費用 支払利息 貸倒引当金繰入額 遊休資産関連費用 賃貸関連費用 その他	34 2,395 15 12 70	2,528
経常利益		5,701
特別利益 子会社株式売却益 その他	392 3	396
特別損失 固定資産除却損 減損損失 出資金評価損 特別退職金 損害補償損失引当金繰入 移転関連費用 その他	21 51 67 274 244 52 5	718
税引前当期純利益		5,379
法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額	2,610 △988	1,621
当期純利益		3,758

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

個 別 注 記 表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式……移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの……時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等……移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

① 未成工事支出金……個別法による原価法

② 材料貯蔵品……移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建 物	10年～50年
構築物	10年～50年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 完成工事補償引当金

完成工事の瑕疵担保の費用に備えるため、当事業年度の完成工事高に対する将来の見積補償額に基づいて計上しております。

(3) 工事損失引当金

受注工事に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末における未引渡工事の損失見込額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。なお、過去勤務費用は発生年度の従業員の平均残存勤務期間(15年)による定額法により損益処理しており、数理計算上の差異は発生年度における従業員の平均残存勤務期間(15～16年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から損益処理することとしております。

(5) 損害補償損失引当金

将来の損害補償損失に備えるため、当事業年度末において発生の可能性が高く、かつ、損失の金額を合理的に見積もることが可能なものについて、その損失見込額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

顧客との契約については、以下の5ステップアプローチに基づき、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に権利を得ると見込む対価の額で収益を認識しております。

ステップ1：顧客との契約を識別する

ステップ2：契約における履行義務を識別する

ステップ3：取引価格を算定する

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する

(1) 工事契約に係る収益認識

工事契約等に係る収益には、主に電気通信設備の構築等が含まれており、顧客との工事請負契約に基づいて工事目的物を引き渡す履行義務等を負っております。これらの契約については、履行義務を充足するにつれて一定の期間にわたり収益を認識しております。

なお、履行義務の充足に係る進捗率の見積りの方法は、主として原価比例法（インプット法）により算出しております。

ただし、契約における取引開始日から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い契約及び重要性が乏しい契約については一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した一時点で収益を認識しております。

また、履行義務が一定期間にわたり充足される工事契約において、進捗度を合理的に見積ることができない場合、発生した費用のうち顧客から回収できると見込まれる金額を収益として認識する原価回収基準を採用しております。

工事契約に係る取引の対価は、顧客の検収が完了した後、概ね3ヶ月以内に受領しており、重要な金融要素は含んでおりません。また、対価の金額が変動しうる重要な変動対価はありません。

(2) 商品等の販売に係る収益認識

商品等の販売に係る収益には、主に工事用材料・資材の販売等が含まれており、顧客との販売契約に基づいて商品等を引き渡す履行義務を負っております。これらの契約については、引渡時点において履行義務を充足されると判断し、当該時点で収益を認識しております。

ただし、国内の商品等販売において、出荷時から支配移転時までの間が一定期間を超えない場合については代替的な取り扱いを適用し、出荷時に収益を認識しております。

なお、商品等の販売のうち、当社が代理人に該当すると判断したものについては、他の当事者が提供する商品と交換に受け取る額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しております。

商品等の販売に係る取引の対価は、顧客の検収が完了した後、概ね3ヶ月以内に受領しており、重要な金融要素は含んでおりません。また、対価の金額が変動しうる重要な変動対価はありません。

(3) 役務、サービス等の提供に係る収益認識

契約上の条件が一時点をもって完了する役務・サービス等の提供に係る契約については契約上の条件が満たされた時点をもって収益を認識し、契約上の条件が一定期間にわたり役務やサービス等を提供し続ける契約については、履行義務の充足に係る進捗度に応じて収益を認識しております。

役務・サービス等に係る取引の対価は、役務・サービス等の提供後、概ね3ヶ月以内に受領しており、重要な金融要素は含んでおりません。また、対価の金額が変動しうる重要な変動対価はありません。

5. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) グループ通算制度の適用

グループ通算制度を適用しております。

(2) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額	22,472	百万円
2. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務		
短期金銭債権	932	百万円
長期金銭債権	14,321	百万円
短期金銭債務	9,484	百万円
長期金銭債務	16	百万円
3. 土地の再評価		
土地の再評価に関する法律（1998年3月31日法律第34号・最終改正2005年7月26日法律第87号）に基づき、事業用の土地の再評価を行い、「土地再評価差額金」を純資産の部に計上しております。		
・再評価の方法……………土地の再評価に関する法律施行令（1998年3月31日政令第119号・最終改正2006年1月27日政令第12号）第2条第4号に定める評価額に合理的な調整を行って算定しております。		
・再評価を行った年月日……………2002年3月31日		
・再評価を行った土地の期末における 時価と再評価後の帳簿価額との差額	5,425	百万円

税効果会計に関する注記

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因

繰延税金資産

貸倒引当金	1,119	百万円
未払賞与	964	百万円
関係会社株式評価損等	1,507	百万円
投資有価証券評価損	26	百万円
減損損失	75	百万円
工事損失引当金	1,576	百万円
損害補償損失引当金	208	百万円
その他	356	百万円

繰延税金資産小計 5,835 百万円

評価性引当額 △2,417 百万円

繰延税金資産合計 3,418 百万円

繰延税金負債

前払年金費用	△1,757	百万円
固定資産圧縮積立金	△159	百万円
その他有価証券評価差額金	△1,352	百万円
その他	△163	百万円

繰延税金負債合計 △3,432 百万円

繰延税金資産の純額 △14 百万円

2. 再評価に係る繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因

繰延税金資産

再評価に係る繰延税金資産	3,367	百万円
評価性引当額	△3,367	百万円

再評価に係る繰延税金資産の合計 — 百万円

繰延税金負債

再評価に係る繰延税金負債	1,213	百万円
--------------	-------	-----

再評価に係る繰延税金負債の合計 1,213 百万円

再評価に係る繰延税金負債の純額 1,213 百万円

3. 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、当事業年度に、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。

これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、

「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第 42 号 2021 年 8 月 12 日。）に従っております。

関連当事者との取引に関する注記

(1) 親会社及び法人主要株主等

(単位：百万円)

属 性	会社名	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引 金額	科 目	期末 残高
親会社	コムシホールディングス(株)	被所有 直接 100%	役員の兼任 経営管理の 契約 資金の寄託 運用	資金の寄託運用 利息の支払 配当金支払 経営管理料	— 12 4,898 617	関係会社預け金 未 払 金	1,985 8

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 資金の寄託運用及び利息の支払については、市場金利を勘案して決定しております。
 なお、資金の寄託運用に係る金額については、反復かつ継続的に行っているため記載を省略しております。
2. 経営管理料については、基本契約書等に定める役務提供割合に応じて合理的に決定しております。

(2) 子会社等

(単位：百万円)

属 性	会社名	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引 金額	科 目	期末 残高
子会社	コムシモバイル(株)	所有 直接 100%	当社外注先	外注工事等	5,749	工事未払金	1,602
子会社	コムシ通産(株)	所有 直接 100%	製品の購入先	材料の購入等	9,301	工事未払金	2,647
子会社	コムシスクリエイト(株)	所有 直接 100%	資金の援助	貸付金利息	18	長期貸付金	11,488
子会社	枕崎バイオマスエナジー(同)	所有 直接 100%	資金の援助	貸付金利息	4	長期貸付金	2,820

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 外注工事及び材料の購入等の発注金額は市場価格等を前提に一般取引条件を勘案し決定しております。
2. 利息の受取については、市場金利を勘案して利率を決定しております。

(3) 兄弟会社等

(単位：百万円)

属 性	会社名	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引 金額	科 目	期末 残高
親会社 の子会社	㈱つうけん	なし	株式の売却	子会社株式の売却	393	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 株式会社つうけんへの株式売却は、同社に当社が保有する全株式を譲渡したものであり、その価格条件については、純資産等を基礎として協議の上、決定しております。
 なお、株式の売却にあたり、子会社株式売却益 392 百万円を計上しております。

1 株当たり情報に関する注記

1 株当たり純資産額	2,650 円 04 銭
1 株当たり当期純利益	58 円 80 銭

重要な後発事象に関する事項

該当事項はありません。

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。